

心新たに

～新任職員辞令交付式～

ふくろう新聞



平成30年度春。ふくろうの郷では中途採用も含め新たに8人の新任職員を迎えました。2日間の研修を終え、「聞こえない人たちから仕事を通して学びたい」「早く仕事をしたい」と逸る気持ちを述べられる新入職員さんに今後の活躍を期待します。

<発行>
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原町中川原28番地1
TEL:0799-25-8550
FAX:0799-25-8551
ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/fukurou/>

平成30年度事業計画・予算審議される

理事会・評議会報告

3月10日(土)に第85回理事会が、24日(土)第52回評議員会が開催され、2018(平成30)～2020(平成32)年度の中期事業計画、2018(平成30)年度の事業計画、予算についての議論を中心に行われました。

○中長期計画を実現していく理事体制

(1)財務・人事・事業企画の各委員会を機能させる

(2)役員参加による予算主義の確立と会計実務の強化

○相談機能の強化

(1)総務事務所と相談担当部門を同室にする

(2)相談連絡会の定期開催

○人材確保と定着及び援助力の向上

(1)近畿合同機構主催での三法人共同での募集説明会

(2)ふくろうの郷を会場とした他の法人との協力による実務者研修の実施

○神戸事業 新施設建設

新・こうべろうあハウス等の整備

○社会貢献

中川原ふれあいセンターによる地域貢献

北播地域の拠点づくりの足掛かり

新年度を迎えました。その2日前の3月30日に地域交流会の方々が鯉のぼりの竹を建ててくださいました。毎朝天気の良い日には入居者の黒崎さんが鯉を泳がせてくれます。あの鯉のように力強くのびのびと、新しいことにも取り組んでいける年度となりますよう。

家族の会総会開催

3月10日に第22回淡路ふくろうの郷家族の会を開催しました。今回の参加は7家族11名で、新規入居者のご家族も出席されました。平成29年度の事業報告と会計報告、平成30年度事業計画・予算の承認、新役員が選出されました。ふくろうの郷の運営状況が厳しいとの報告に心配してくださるお声や家族でもできることがあればお手伝いします等意見交換されました。

平成30年度には、学習会の開催や初夏まつりのお手伝いなど、新しい取り組みも予定されています。

平成30年度役員紹介

- 会長 濱田 純一
- 副会長 武田 貴子
- 会計 岩橋 和樹
- 会計監査 福貴 真子
- 幹事 久野 誠
- 幹事 木邨 光正

(相談主任 竹原哲章)

11月から仕事をしています。以前は葬儀会社で働いており、ふくろうの郷と関わるなかで「ここで働きたい」と、介護の仕事は初めてでしたが、思いきって飛び込みました。まだまだ皆様に助けられればかりですが、1日でも早く入居の方々の力になれるように頑張りたいです。(生活援助員 魚崎 恭行)

昔から人と交流したり、本音を言うことも苦手でした。2月から働いており、今でも不安で戸惑うこともあります。そんな自分に「ありがとう」と言って下さる入居者のために、最期まで向き合える人になりたいです。(生活援助員 山本 玲奈)

ふくろうの郷で働き8か月になります。まだまだ先輩に教えて貰ったり助けられてばかりです。もっと入居者の皆様に喜んで貰えたり、「ありがとう」と言って頂けるように、少しでも早く成長出来るよう頑張っていきたいです。(生活援助員 米山 賢一)

入職して3ヶ月。話をしたいと思っても手話が理解できず、通じないこともあります。でも、入居者とのふれあいを大切にしながら、もっと手話を覚えて楽しく会話出来るよう頑張りたいです。(生活援助員 里 香住美)



▲新人職員研修 入居者との交流で、人生に向き合うみなさん

職員 New face

どうぞよろしく

4月からお世話になります。春から一人暮らしも始まり、新社会人として嬉しい気持ちと不安な気持ちです。持ち前の明るさで一生懸命頑張ります！手話は初心者ですが、入居者と表情や身振り、手話も使いながら楽しくお話したいです。(生活援助員 井上恵梨香)

2年前に手話の勉強を始め、耳の聞こえない方の体験談を聞いて、何か出来ることはないかと思い、ふくろうの郷で働くことにしました。手話もまだまだですが、入居者に教えてもらいながら、毎日楽しく、笑って過ごせる1日を一緒に過ごしていきたいと思います。(生活援助員 畑野 正美)

身体障害者の施設で働いていましたが、もっと経験をつむため、特養で働きたいと思いました。そんな時にふくろうの郷のことを知りました。手話が必要となるので、自分に出来るのか・・・悩みましたが、ふくろうの郷で働くことを決めました。働き出して1ヶ月。手話にふれながら、学び、スキルアップにつなげていきたい。(生活援助員 木下 卓幸)

11月より生活援助主任をしています。入居者の方々にとって、安心して安全な生活を目標に頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。(生活援助主任 加野 明宏)



3月20日(火)、ふくろう大学修了式が行われ、この1年間に開催された書道・絵手紙・料理の3つの講座の参加者全員に修了証が手渡されました。ボランティアの先生のご協力をいただき、入居者は楽しみながら学んできました。施設長より修了証書が渡されると皆さん笑顔で受け取られ、中には涙を流して喜ばれる入居者もおられました。来年度もたくさん入居者に参加していただき、各々の学びの場にしていきたいと考えています。(生活援助主任 加野明宏)



▲修了証書を受け取り、うれしそうにみんなにみせる山崎榮子さん(91歳)

ふくろう大学修了式

ふくろう物語 澤田つや子さん

着物の仕立てに誇りを

澤田さんは、昭和6年、兵庫県朝来市で6人兄妹の5番目として生まれ現在87歳です。姫路のろう学校に通っていた時は多くの友人に恵まれましたが、戦争がはげしくなると安全の為、学校に通えない日々が続きました。終戦を迎え、友人と再会した時は、とても嬉しかったと笑顔で話されます。ろう学校卒業後は家で着物の仕立ての仕事をずっとされ、当時の大きな仕立て台は、今も家に置いて



▲笑顔の澤田さん(左)仲良しの松崎さんと

ているほど大切にされてきました。結婚はされておらず「寂しくない」と言われる澤田さんですが、大好きだったお姉さんが嫁いだ話をするときは寂しそうです。50年以上朝来市で暮してこられました。お母様の死後、姉が住んでいる明石市に引っ越されました。

明石で新たな生活 ろう者との出会い

明石では、近所の方がボラティアでお世話をしてくださり、その方は澤田さんとの出会いがあつて手話を学んだそうです。明石ろうあ協会で活動、のちにふくろうの郷と一緒に生活することになる西内千鶴子さんとも出会います。ろうあ協会の行事や旅行に参加するのを楽しみにされていた澤田さんですが、高齢になるにつれ一人暮らしが難しくなり、昨年9月に淡路ふくろうの郷に入居されました。

ふくろうでも、話し好き、 いつも笑顔で

明石で続けて生活したい気持ちもあり、夜中に明石の友人を探したり、自分の部屋や



▲ちぎり絵を楽しむ澤田さん(中央)

トイレが分からなくなったりと、不安な様子がうかがえましたが、入居後は友人を作るのが得意な澤田さんは、みんなとすぐに打ち解け、仲良くなられました。

明石にいたころは、ろうあ協会の行事に参加する以外はお部屋にこもりがちだったそうですが、ふくろうの郷ではほとんどドリビングで皆さんと手話でのお話を楽しんでいきます。

お話しすることが大好きな澤田さん。他の入居者と関わりながら、里帰りや旧友に会う支援も計画していきたいと考えています。

(生活援助員 川満 和則)



やまももから訪問



▲仲間との再会を喜ぶ安芸正枝さん

3月11日、徳島県にある聴覚・ろう重複障害者生活支援センター「やまもも」の仲間が見学に来てくれました。懐かしい顔ぶれに徳島から入居した安芸さんは終始大喜びでした。

～旧友との再会～

香川手話祭り



▲「久しぶり」「元気よ！」

との方々から言葉を掛けられると、懐かしそうな表情をされ、手話がやむことはありませんでした。また、再会を喜び、涙を流されていた方もいました。

3月18日(日)、香川県手話まつりに参加しました。香川県から入居されている谷口さん、旅田さん、川村さんの参加援助です。会場に着くなり、「久しぶり、元気！」とたくさん(生活援助員 和田彩加)

**淡路聴覚障害者
センター便り**

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

3月18日(日)聴覚障害を持つ子ども、親たちを対象に交流、意見交換の場として『みんなあつまれ!輪っはっは♪』第3回目を中川原ふれあいセンターで開催し、3組7名の親子と、あわじ特別支援学校から4名の先生方が自主参加して下さいました。

同じ仲間意識からか、

あつという間に仲良し

前半は手話での絵本の読み聞かせや、手作りお菓子を作ったりと親子一緒に活動をしました。後半はお母さんたちと離れて子ども達だけで工作やミニ野菜の種まきをしました。すっかり仲良くならぬって初めて参加した子、以前参加した子もすっかり打ち解けて子どもたちだけで遊び

に夢中になっていました。

自身の体験をとおして

後半では保護者の方には、特別支援学校の先生で自身も聴覚に障害を持っている山根さやか先生との座談会で、日頃悩んでいることを話して



▲手話で絵本の読み聞かせでは子供たちも集中

でも経験談が出され、話しがはずみました。

**みんなが主役。積極的な
意見多数**

「親子が分かれての活動も良い経験だ」「子ども同士の関わりがもう少しあれば良い」「同障児と会う機会がないので嬉しい」という感想も頂きました。次回開催の内容も話し合われ、この場が皆さんにとって必要なのだと改めて感じました。(職員 高木 恵理)



「南あわじ市手話言語の確立及び障害者のコミュニケーションに関する条例」制定

南あわじ市長・議長と共に傍聴に訪れた関係者



3月26日南あわじ市議会定例議会にて、「手話言語及び障害者のコミュニケーションに関する条例」が制定されました。可決の瞬間、行政執行部の方々も手話で「ありがとう」と議員の皆さんからも「手話の拍手」が沸きおこりました。斉藤会長は「これを機に、職員や一般の人々への理解を広めてほしい」と話されました。(吉川 稔)

～ ご挨拶 ～

4月1日付でセンター長として就任いたしました。新しい気持ちで邁進していきたくと思います。皆様方にはこれまで通りご支援よろしくお願ひ致します。
センター長 楠本 恵利子

4月からおのころ屋よりセンターへ異動となりました。新しい職場で不慣れでご迷惑をおかけするかもしれませんが、頑張りたいと思いますのでよろしくお願い致します。
岡本 久子

**平成30年度
淡路聴覚障害者センター事業重点**

1. 中途失聴・高齢難聴者への支援強化

「耳の教室」を淡路三市の地域、集会などで開催し、聴覚など障害についての理解を広げ、地域で孤立している高齢難聴者・中途失聴者への支援の強化を図る。これから増加する高齢難聴者に対し、要約筆記者派遣利用拡大にも繋げていく。

2. 聴覚障害者・難聴児への支援強化

インテグレートにより島内では、聴覚障害児、難聴児は普通学校に点在している。保護者、本人とも聴覚受容を支えていくための相談や交流の機会を継続する。

2018年度の事業方針

中川原高齢者・障がい者地域
ふれあいセンター



☎656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
TEL 0799-28-0990
FAX 0799-28-0992

『地域活性化』に対する取り組みを地域住民とともに積極的に行なう
地域が元気になることは法人各事業所の利用者にとっても好循環をもたらします。今後も地域住民とともに意見交換を行い、困りごと解決・人と人の繋がり作り・地域活性化を目指していくために取り組みます。

- ① 今後3年間をかけ「さくら食堂」を試行・本格化を推進
- ② おたがいさま中川原・ふれあい広場桜ヶ丘の運営強化
- ③ 「ふれあいセンター運営委員会」運営体制の強化



★居宅介護支援事業所「桜ヶ丘」

地域住民支援はもちろんのこと、淡路島唯一の「聴覚障害者にも配慮した居宅介護支援」ということで高齢聴覚障害者支援もすすめていきます。

- ① 担当件数45～50件を目標・維持していきます。
- ② 各関係機関と連携し、高齢聴覚障害者支援に取り組んでいきます。
- ③ 各種研修等に参加し自己研鑽に努めます。

★淡路聴覚障害者相談支援事業所

- ① 収入安定への努力
相談支援専門員1人当たり1ヶ月の担当上限件数35件を維持していきます。
モニタリング実施期間の見直しを行います。
- ② 各関係機関との連携
介護保険制度移行者の引き継ぎ
多職種との連携、協働、専門機関等の活用
- ③ 職員育成
外部研修へ参加し、障害福祉制度と相談支援技術を中心に知識・技術を学ぶ

★デイサービスセンター桜ヶ丘

平成29年度は定員規模を14名とした結果、当初平均稼働率は50%台でしたが、当面目標としていた70%を達成する月もできています。

介護保険改正の中で安定的な運営を行えるよう今後3年間の目標を下記の通り設定します。

- ① 安定して稼働率75～80%としてゆく。
- ② 定員増を目指す（地域密着型→通常規模へ引き上げを目指す）
- ③ 利用者ニーズ・状態に応じ施設内修繕・器具の整備をすすめる。
- ④ 常に介護技術、コミュニケーション技術の向上を図る。



★おのころの家・おのころ屋

- ① 利用者主体のサービス提供強化(稼働率95%)
- ② 利用者の気概や意欲を積極的に引き出せるためにレク活動や年間行事等を実行します。
- ③ 重度化や知的障害をもつ利用希望者の援助に伴い、共生型等の事業形態について検討
- ④ おのころの家・おのころ屋事業の取組み
 - ・農業に関する取組み（野菜等の生産・販売）
 - ・生活のゆとりを求めている高齢者・作業の技術を深める必要のある若い世代の人
 - ・経営・運営する焼き菓子・パン製造販売強化
営業日数・時間を増やすため、売上げアップを目指すには職員体制の強化を図ります。



神戸事業所 安心して暮らせる
福祉施設を!!

共同作業所 神戸ろうあハウス

神戸ろうあハウス デザイナービスセンター

〒652-0897 兵庫県神戸市兵庫区駒南通5-4 西高架下16号
TEL & FAX ... 〇七八・五七九〇七五五

四千二百万円突破

建設推進委員会の一億円募金

兵庫県下の各協会が募金活動を続けてくださる成果として、ようやく募金の総額が、3月31日に4千二百万を超えました。

新施設の建設が予定される神戸では、各区の目標額達成のために、街頭募金だけではなく、オリジナルのグッズを作り販売。また講演会、手話講習会、独自のDVD作りと、各区が独自の方法で進めています。一ヶ月に一度の「ハッスル神戸」の会議の場はその情報交換の場ともなっています。

3月11日の耳の日記念大会

11月着工めざし

国庫補助申請中



▲神戸耳の日記念大会で並べられた「ハッスル神戸」のバザーの品

では、いくつかの地域がブースを確保し、グッズ販売を頑張っていました。

施設建設予定地の神戸では

建設推進委員会もブースを確保し、新施設の模型を置き、のぼりを立てて参加の皆さんに呼びかけるとともに、質問に答えたりしました。

併せて、プレート募金の予約の受け付けもおこなわれました。当日、11人の予約がありました。その後、早速、何人かの人が本申込みの手続きをされました。



▲神戸耳の日集会に於いて、記念プレートの説明。申込者が40名を超えました。あなたも申し込みませんか。ご協力お願いします。

しかし、この年度末の目標の七千万円にはまだまだです。建設推進委員会としては、オルグと契約が来年3月まで、一年延期になった「卒業」の映画上映会を、もっと勢力的に呼びかけていきます。

このように建設推進委員会はオルグや映画上映会を以外に、「ひとりぼっち」のピラに続き、より詳細な内容のリーフレットや、皆さんに現在のろう重複のなかまや、ろう高齢者、難聴者、喉頭摘出された人、ろう児の現状や親の思いなどを載せた冊子作りを計画、作業に取り組んでいます。皆さんに正しく理解していただき、一人一人が納得した上で募金活動に頑張っていただきたいと思っています。一人一人が募金活動、啓発活動の担い手なのです。(眞木崇江)

4月・5月 ふくろうの暮らし



- 4/17 (火) ふくろう大学開講式
ふくろう大学絵手紙講座
おのころ屋パン販売
- 4/18 (水) ふくろう喫茶
- 4/20 (金) ちぎり絵
- 4/22 (日) 淡路聴力障害者協会総会
- 4/24 (火) ふくろう大学書道講座
- 4/27 (金) ふくろう大学料理講座
- 4/28 (土) 就職希望者施設見学会・入居者との交流
- 5/5 (土) 地域交流会手話講座開講
- 5/7 (月) ふくろう理髪店
おのころ屋パン販売

ふくろうの郷初夏祭り

6月17日(日) 12:00スタート

例年開催しているバーベキュー大会を今年は「初夏祭り」として屋内で開催します。ろう協やサークル、各団体のみなさんに出店をお願いし、入居者と一緒に楽しんでいただきたいと思います。出店やボランティアの応募よろしくお願ひします。



詳細は次号で案内します